

境医学会大会. 岐阜, 11月. [宇宙航空環境医 2009 ; 46(4)]

## スポーツ医学研究室

教授：丸毛 啓史 膝関節外科  
(整形外科兼任)  
講師：舟崎 裕記 肩関節外科, スポーツ傷害  
(整形外科兼任)

### 教育・研究概要

#### I. サッカーのキック動作における骨盤の3次元動作解析

サッカーのキック動作における骨盤の3次元動作解析を行い、股関節周囲筋の損傷との関係について考察した。その結果、インパクト直後に骨盤は逆回転、逆回旋を示し、これが股関節周囲筋の伸長性収縮を招き、負荷がかかるものと推測し、この動きを reverse motion と定義した。また、上肢の動きを止めると、この reverse motion が増大したことから、キック動作においては上半身との連動性が重要であることが推測された。

#### II. 成長期スポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーション

当科を受診した成長期のスポーツ障害の統計学的検討を行い、その特殊性やアスレティックリハビリテーションの有用性につき検討した。その結果、成長期のスポーツ障害は自己修復能力が高いことが判明した。本疾患に対しては、早期発見、早期治療が重要であるが、罹患部位以外の身体問題点に対するアスレティックリハビリテーションが早期の競技復帰において有用であった。

#### III. 成長期スポーツ障害の問題点

成長期のスポーツ障害における問題点につき、患者を取り巻く現在の環境を中心に検討した。幼少期に多くの外遊びを経ずに一つの競技に従事させることによって障害発生が生じやすくなっていることが示唆され、一方で問題となっている子供の体力不足と類似した環境問題が一因となっていると考えられた。早期発見が重要であるが、現行の学校検診などでは不十分であり、そのシステムを構築していく必要があると考えた。また、治療にあたっては、親、指導者、医療機関の良好な連携を構築することが重要で、そのためにメディカルマネージャーの導入が有用であると考えた。

## 〔点検・評価〕

プロフェッショナルを含む競技選手，日常生活に積極的にスポーツを取り入れているスポーツ愛好家，さらに学校の部活動やスポーツクラブに従事する成長期の選手を中心に研究を継続しているが，2009年はとくに成長期のスポーツ障害に対する研究が多かった。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) 舟崎裕記，吉田 衛，菅 巖，加藤壮紀，諸橋正行，笠間憲太郎，丸毛啓史．腱板全層断裂の非手術例に対する保存療法の有効性．肩関節 2009；33(3)：697-700.
- 2) 菅 巖，舟崎裕記，吉田 衛，加藤壮紀，諸橋正行，笠間憲太郎，丸毛啓史．腱板断裂症例における肩峰の形態学的ならびに免疫組織学的検討．関東整災外会誌 2010；41(1)：11-7.
- 3) 舟崎裕記，油井直子，菅 巖，加藤壮紀，諸橋正行，丸毛啓史，岩間 徹．ボクサーに生じた肩甲骨関節窩骨軟骨損傷の1例．日整外スポーツ医会誌 2009；29(2)：64-8.

### III. 学会発表

- 1) 舟崎裕記．肩のスポーツ障害－球技スポーツにおける障害の傾向と対策－．第14回白河医師会スポーツ医学研究会．白河，4月．
- 2) 舟崎裕記．成長期スポーツ障害の問題点．第17回日本運動生理学会大会．東京，7月．
- 3) 舟崎裕記，岩間 徹，六本木哲，加藤晴康，林 大輝，石井美紀，佐藤美弥子，丸毛啓史．サッカーのキック動作における骨盤の3次元動作解析－第2報：熟練度ならびに上肢の運動制限による相違－．第20回日本臨床スポーツ医学会学術集会．神戸，11月．
- 4) 加藤壮紀，舟崎裕記，吉田 衛，菅 巖，笠間憲太郎，丸毛啓史．成長期のテニスプレーヤーに生じた肩甲下筋付着部の裂離骨折の1例．第35回日本整形外科スポーツ医学会学術集会．前橋，9月．
- 5) 石井美紀，木下一雄，佐藤美弥子，舟崎裕記，丸毛啓史．成長期スポーツ障害に対するアスレティックリハビリテーション．第126回成医会総会．東京，10月．

### IV. 著 書

- 1) 舟崎裕記．第1章：疾患別リハビリテーションの常識非常識 4. 運動器疾患 ⑥スポーツ疾患．安保雅博，橋本圭司編著．知ってるつもりのリハビリテーションの常識非常識．東京：三輪書店，2009．p.55-8.

### V. その他

- 1) 舟崎裕記．五十肩（上）（中）（下）．日刊スポーツ新聞．2009.
- 2) 舟崎裕記．腱鞘炎には気をつけろ！ 月刊GOLF DIGEST．2009.